修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　鴻田好通
〒102-0074
東京都千代田区九段南
2－6－8九段南ビル
☎03（5275）6651
http://www.d2.dion.ne.jp/~shuryo
e-mail shuryo@d2.dion.ne.jp

財団法人全国修学旅行研究協会（全修協）は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団である。

# 平成11年度、公立高校海外修学旅行は377校で実施、6万2千名が参加

財団法人全国修学旅行研究協会（理事長・谷合良治）より「平成十一年度全国公立高等学校海外修学旅行実施状況調査報告」が発表された。

この調査は、全国都道府県並びに政令指定都市の教育委員会の協力を得て毎年実施しているもので、このたび平成十一年度実施の海外修学旅行状況がまとまったものである。

公立高等学校における海外修学旅行は、昭和六十二年浦和市立高校の中国修学旅行が最初のものとされており、公立高等学校の海外修学旅行は本年で十三年目を迎えた。

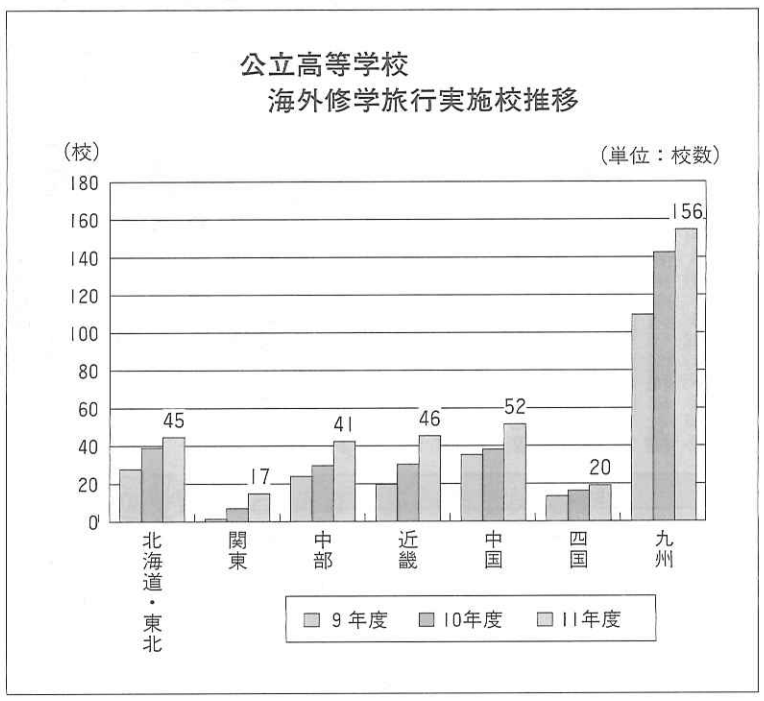
平成十二年度の公立高等学校海外修学旅行の実施許可状況は、一都一道二府三十八県・八政令指定都市で許可となっており、学校教育における国際化の進行は全国各地で定着しつつある。

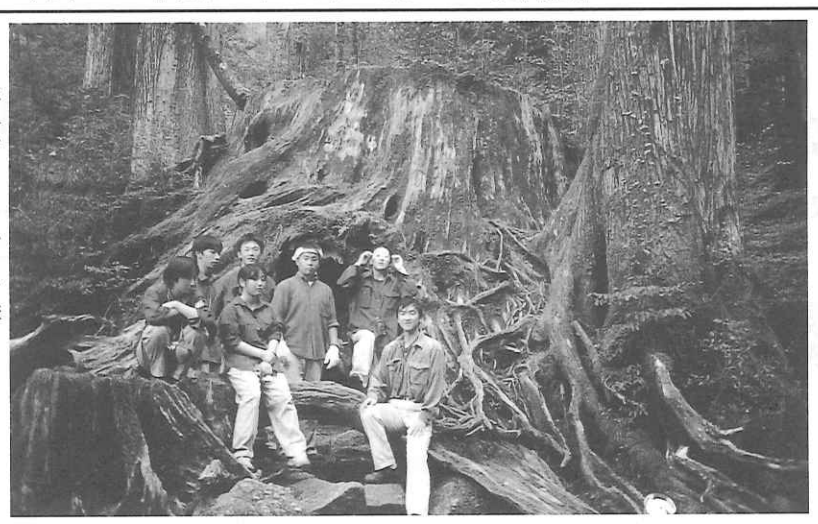
今回の調査報告によると、海外修学旅行を実施している学校数は三百三十七校（前年比122・4%）、参加生徒数六万二千百五十二人（115・2%）と毎年二桁の高い伸び率を示している。

実施率（海外修学旅行実施校数÷当該地方公立学校数）は全国で9・5%と全国の公立高等学校の一割に近い数値にまで伸びてきている。

海外修学旅行の実施許可に当っては、県教育委員会と学校間の事前協議をはじめ生徒・保護者の同意を得ること、万一の場合に対応できる体制作り、費用面では保護者の負担過重をさけるなど条件付の許可となっている。海外修学旅行の課題である安全性・教育性・経済性の確保と向上、計画性についての要望が年々高まっており、これらの課題対応に向け（財）全修協はもとより行政・民間一体となった改善向上への取り組みが必要とされている。

ふれあい－北海道札幌国際情報高等学校
（'99韓国修学旅行感想文写真コンクール入賞作品）



屋久島・ウィルソン株
群馬県立尾瀬高等学校

## 主張

# 修学旅行のまとめ

## －生徒の変容をどうとらえるか－

一般に修学旅行の評価はその大局的前提として、学習指導要領の特別活動・学校行事等の示すねらいや内容からの観点、また、各学校の教育目標、修学旅行の実施計画からの観点が考えられる。特別活動の評価は、①指導計画、②指導方法・指導体制、③個々の生徒の発達、④生徒集団の発達が基本である。修学旅行では③④の生徒の活動・変容に関わる評価が特に重要である。例えば、いい修学旅行とは、その目的・ねらいに照らして、児童生徒が好ましく行動・活動し、変容が見極められるものであろう。

現実に、修学旅行中の児童生徒の行動や活動の状況や変容を見極めるのは大変に難しい問題である。特に、現今の修学旅行のように、班別自主の行動・学習が一般的になっている中での生徒の状況把握には限界もある。しかし、そこには、現今の修学旅行の評価は、主体である生徒の状況把握を曖昧にしたままになされているのではないかという懸念がある。

従来、班別行動とともに取り入れられたチェックポイント方式には班別行動における生徒と教師の接触点としての意味が少なからずあった。しかし、現在は、所謂ケイタイや修学旅行ナビによる班の動向把握・管理方式がこれに代わりつつある。このことは、生徒との接触やその状況把握をますます稀薄にしていくことに繋がっていく。そういう意味では、従来のチェックポイントにこだわらず、生徒の行動・活動を把握・観察するための時間、情報・資料収集の場の設定が必要である。さらに、生徒の移動・見学・学習などの場で多面的に生徒の状況把握・資料収集という視点が不可欠である。つまり、引率教師は班別の動向・安全だけを把握し、あとは生徒の自主行動に任せていればよいというのではなく、一人一人が、生徒の状況把握に関わる役割を分担し、生徒の状況把握のために積極的に生徒との関わりを持ったり、時には適切な助言なども含めた教師の組織的協働が必要である。こうしたことが、事後の反省やまとめ、作文・記録等をどう読み取るか、どう評価するかに生きて来よう、また、それが生徒の変容をとらえる観点ともなるのではないか。このことで大切なのは、生徒の自己評価能力であり、そのための時間の設定である。生徒の自己評価力を十分に発揮させるには、その時間を生徒任せにするのではなく、学年・引率教員の全員が関わって、個や班別に対して、見学・体験、班別行動を確かめ、変容を発見させる肯定的助言が大切となる。特別活動や生徒理解に関わる教師の評価能力・観察力は個々の教師の資質能力にもよるが、優れて教職の専門性に関わることがらであり、不断の研鑽が求められる。

以上に加えて、現今の修学旅行評価において、特に強調されなければならないのは、前述④の「集団の変容」の観点であろう。それは例えば、「学年や学級・班などにおいて好ましい人間関係が成立し、現在も豊かに発展しているか」など修学旅行の全体を通した、学校行事としての基本的観点ではなかろうか。自主性の伸長を優先するあまり、個や班別の中に埋没して、集団の変容の観点を忘れてはなるまい。より多くの目、より多くの場面、より多くの情報とそれらを総合する教師の観察力、客観的な評価能力が基本である。今後、班別行動の範囲拡大傾向の中で、班別自主の実態を把握する上からも、こうした視点からの修学旅行、生徒の状況把握や変容を見極めることが可能な修学旅行や班別自主学習の在り方が検討される必要があろう。

## 風紋

梅雨明けが待たれる日々となった。雨の修学旅行は難渋する。特に班別行動では移動だけでも大変である。それだけに思い出も格別なものがあるようだ▼今年の梅雨入りは六月九日、昨年より八日遅いとか、暦の上では十日であった。立春から数えて百二十五日頃を入梅、入梅から三十日目を「出梅」という。入梅も出梅も統計上そういうことになっているが、出梅だからといって必ずしも梅雨明けとはならない「さみだれの空吹き落とせ大井川・芭蕉」▼迎え火と送り火はお盆の始まりと終わりの慣わしである。都会地では殆ど見かけなくなっている。江戸市中の盆風俗では、十三日、夕方までに寺参りをし、迎え火を焚き、盆灯篭を下げ、精霊を迎えた。十五日夕方、送り火を焚き、十六日早朝、盆棚や供物類をお迎え屋が集めて小舟で川に流した。盆の期間は土地により異なる。七月朔日は地獄の釜の蓋のあく日という伝えもあり、七月中を盆としている地方もある。我が国での盂蘭盆会は六五七年（斎明天皇三年）法興寺での法要が始まりといわれる▼盆踊りは、盆に行われる念仏踊りをいうが、新仏などの精霊供養として鉦や太鼓を打ち鳴らし行列を組んで踊る形から、寺の境内で櫓などを組んでその周りでの輪踊りの形も生まれた。土地の神々への神事、豊年祈願も盛り込まれ、更に芸能・娯楽的要素も加わった▼現代は、本来の宗教行事的色彩は薄れて、行列踊りや輪踊りの形と観光娯楽的要素が強く残っているようだ。（鴻）

## 教育の窓

# 問われる管理職

東京農業大学教授
前文部省初等中等教育局主任視学官
渡部邦雄

職業柄、学校を訪問する機会が多い。校内に一歩足を踏み入れるだけで、その学校の校長の経営姿勢が見えてくる。中には、この校長の資質は如何なものかと、首を傾けざるを得ない例も見聞する。

狭い学校の中にいると、自己評価が不充分となり、時には慢心してしまう恐れもあるのである。そんな馬鹿なと思われるかも知れないが、正に事実である。

このことは、教育界の先輩たちが、管理職や教師の心得として、よく述懐され、心されたことである。

一方、今日の時代にあっては、学校の自主性、自律性が問われ、特色ある学校、開かれた学校を目指した教育の転換が叫ばれている。

学校評議員制度が動き出し、保護者による学校選択も現実になった。

このような教育界の動向の中にあっては、特に、管理職は自省、自戒し、研鑽を積み、高い識見と豊かな教養を身に付ける必要がある。

その意味で、以下の話をどう思われるであろうか。

一つは、校内研修会の講師をめぐっての話である。

講師依頼の電話が研究推進委員長の教師から、A氏に直接かかってきた。日時を決めて内諾したが、詳細は後日とのことであった。

しかし、直前まで何の連絡もない。心配になったA氏は、教頭に電話を入れたが、要領を得ず、担当の教師に返事をさせますとのことで不安ながら承知した。

その後、担当教諭とのやりとりがあり、研修会当日、校内研修会に関しての話である。管理職が掌握していないで済むことではない。

こんな始末だから、講師A氏は約束時刻に訪問した。

しかし、受付には人は無く、講師への案内掲示もない。A氏は案内なしに校長室にむかい、ノックして名前を名乗ったが、校長は一瞬ポカンとしており、ややあって、本日の研修会の講師だと気づいたそうである。

担当教諭との直前の打ち合わせも無く、会が遅れて始まった。教師の中には、始めから意欲のなさそうな態度の者が数名おり、彼らは研修会が十分程遅れて終わったことに対して、憤然として席を立っていった。

A氏が救われたのは、何人かの教師が熱心に参加していたことだったそうである。教職員の中には非常識依頼の正式文書も届かず、校長や教頭の名前すら分からない有り様であった。

依頼の正式文書も届かず、校長や教頭の名前すら分からない有り様であった。

その後、担当教諭とのやりとりがあり、研修会当日、校内A氏は約束時刻に訪問した。

しかし、受付には人は無く、講師への案内掲示もない。A氏は案内なしに校長室にむかい、ノックして名前を名乗ったが、校長は一瞬ポカンとしており、ややあって、本日の研修会の講師だと気づいたそうである。

担当教諭との直前の打ち合わせも無く、会が遅れて始まった。教師の中には、始めから意欲のなさそうな態度の者が数名おり、彼らは研修会が十分程遅れて終わったことに対して、憤然として席を立っていった。

A氏が救われたのは、何人かの教師が熱心に参加していたことだったそうである。教職員の中には非常識な人間がでてきたり、校内組織の相互連絡が欠け、組織体として機能していないのは、管理職がこの体たらくだからと言えないだろうか。

二つ目は、教育実習にまつわる話である。

大学の教師が、教育実習生がお世話になっている学校に、お礼と学生の指導のために訪問したときのことである。

B校の訪問が無事終了し、次はC校ですと言ったとこころ、「それは大変ですね」と言われたが、様子がおかしい。さらに「C校近くについでがあるので送りますよ。ただし校門の手前までしか行きません。それでよろしいですか。」とのご好意の言葉に、感謝しながらも一抹の疑問が残った。

C校の校門から離れた所で別れ、校長に面会した。

事前に訪問日程や用件は担当教諭を通して連絡済みであったが、校長は開口一番「何しに来たのか。自分は何も聞いていない。」と言い、次に、名刺を見て「何だ助教授か。」などと、不遜な態度でのたまわったのである。

さらに、教育実習の諸費用代として本当にわずかな額（県教育委員会の助言による）を渡そうとしたら、受け取らないと言う。

助教授は内心、この校長は金銭に関して立派な人だなと感じつつも、県教委との話をしたら、「自分は一切聞いていない」と断言し、関係書類を調べ始めた。

すぐに自分の間違いに気づいたが、謝ることはなかった。そこで、助教授は恐縮しながらも、些少な額の領収書を求めたら、「お礼なのに領収書を書けというのか、こんな額で。百万円なら書いてもよいが。」と言ったのである。

世間の常識ある人間ならば、まさかこんな態度は取るまい。まして、学校の校長ならば、である。

応対に当った教職員の中にも、同様な感じの人物がおり、校内の雰囲気はよくなかったそうである。

彼は実習生がお世話になっていることでもあり、実習生がこんな人物に睨まれ、どんな仕打ちに会うか心配だったので、怒りをぐっとこらえたと話していた。

校門を去るとき、B校の先生の言った意味がよく分かったそうである。

以上の話は、嘘のような本当の話である。

井の中の蛙で世間の常識すら身に付いていなかったり、お山の大将になっているようでは、保護者や社会全体から、軽蔑され、信頼されなくなる。

学校が社会から信頼され、期待されるためには、先ず管理職が「隗より始めよ」の意味を噛み締め、自らの資質向上のために努力する必要がある。

---

修学旅行実施事例紹介　4

# 「自然との共生」を図る人づくりを－屋久島、鹿児島

群馬県立尾瀬高等学校

※詳細は修学旅行ホームページに掲載

**1　修学旅行地としての〝屋久島〟**

群馬県立尾瀬高等学校は、『人間と自然のかかわりについての理解を深め、「自然との共生」を図ることのできる人づくりを目指す』をテーマに、授業、体験学習を展開し、環境教育を積極的に実践している。

それら取り組みの一環として、世界自然遺産の登録を受け、山岳、海洋など多様な環境を有する屋久島は、学習題材として最適の候補地として考えられた。

**2　実践内容**

屋久島自然体験・環境学習〈第2日目の選択コース〉

事前に下記コースから生徒各自による選択、現地ガイドによる説明を受けながら、世界自然遺産登録を受けた屋久島の自然を体験学習する。

**(1)「屋久杉の森の探訪」**

島内南東部の原生林「ヤクスギランド」にて、仏陀杉、くぐり杉など樹齢数千年の屋久杉を見学。島を代表する景観をめぐり、植物生態の観察を行う。

ホテル…ヤクスギランド（約150分）…千尋（せんぴろ）の滝…ホテル

◆生徒の感想

「植生にも他には見られないものが見られた。」

「小人数ということもあって、ガイドの話をゆっくり聞くことができ好印象。紀元杉はマイクロバスで真横まで行けるので、全員で行ってもよかったかも。」

「千尋の滝は花崗岩の一枚岩と大きな滝で景観は抜群。時間があれば近くに行きたい。」

**(2)「亜熱帯植物と海中探訪」**

干潮時の岩場にできる海水溜り（タイドプール）での海水生物の観察、天然記念物・ガジュマルなど、屋久島のもつ自然の不思議をめぐる。

ホテル…大川（おおこ）の滝…栗生（海中展望船）…塚崎タイドプール…中間ガジュマル…屋久島フルーツガーデン…屋久杉自然館…ホテル

◆生徒の感想

「大川の滝はダイナミック。海中展望船では珊瑚や色とりどりの美しい熱帯魚に感動。タイドプールでは珊瑚を拾っておみやげに。ガジュマルの木は不思議な造りだった。フルーツもおいしかった。」

「タイドプールは滑りやすいので磯足袋を用意すればよかった。」

「海がとても綺麗だったが、ゴミが落ちていたのが気になった。」

「屋久杉自然館で、屋久杉のことをたくさん知ることができた。」

白谷雲水峡

**(3)「屋久杉自然館とサバ節工場見学」**

屋久杉自然館にて〝ヤクスギ〟に関する基本的な学習、木工の製作体験を行う。特産品〝サバ節〟の工場見学、歴史民俗資料館にて島の歴史、文化を学ぶ。

ホテル…屋久杉自然館（木工クラフト製作）…世界遺産センター…サバ節工場…上屋久町歴史民俗資料館…ホテル

◆生徒の感想

「屋久杉自然館の講師が親切かつ丁寧だった。クラフト製作は楽しく、熱中できた。」

「世界遺産センターは、展示に工夫がしてあり楽しめる。」

**(4)「ウィルソン株見学」（徒歩区間約12㎞、所要約3時間）**

島内東部の安房川上流の荒川歩道を経て、約400年前に伐採された推定樹齢三千年年の巨大切り株〝ウィルソン株〟を目指す、本格的なトレッキングコース。

ホテル…荒川ダム…ウィルソン株…荒川ダム…ホテル

◆生徒の感想

「サイコー。（班は）5人ぐらいでよい。人数が多いとつまらない。縄文杉まで行けそうだ。雨が降ったら辛い。」

「ガイドが親切。思っていたよりも楽だった。」

**〈第3日の学習コース〉**

**(5)「白谷雲水峡散策」**

島内北部の自然休養林・白谷雲水峡にて、点在する弥生杉、二代杉、奉行杉など著名な屋久杉をめぐり、自然体験を行う。

ホテル…白谷雲水峡（約180分〈弥生杉歩道…原生林歩道…雲水歩道〉）…宮之浦

◆生徒の感想

「ヤクジカに会えた。二代大杉や三本足杉を見て、屋久島に来たと実感した。」

「人数が多すぎるとガイドの声が聞き取れない。パンフも分かりにくい。目的がないとつまらない。環境学習の測定器材（ＰＨメーター等）を持っていくと楽しいかなぁ？」

「とても大きい杉がたくさんあって感動。雨が降ると体力的に辛い。怪我にも注意」

「緑がこんなに綺麗に見えるのは初めてだった。」

**3．事前・事後学習**

事前学習：図書館にて屋久島関連の書籍、資料を準備。生徒各自による閲覧のほか、インターネット等の活用による自己学習。

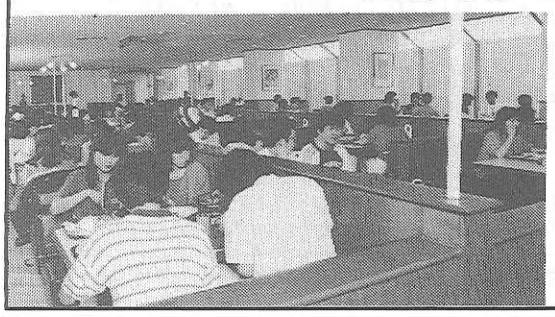
事後学習：行程上の見学箇所の概要、歴史、文化等についてのまとめ、写真、感想を交え個人毎に旅行ノート（ファイル）を作成。

**4．問合せ先**

屋久町観光水商課
○九九七四―六―三三二一
上屋久町商工観光課
○九九七四―二―〇一〇〇

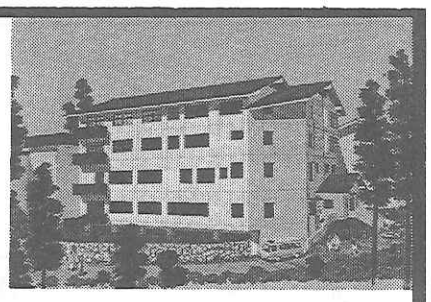
| 期日 | 行程 |
|---|---|
| 平成11年 11/10 (水) | 尾瀬高校 4:40 ═バス═ 羽田 9:00 ……航空機……（9:50 11:30）鹿児島 ═バス═ 鹿児島市内見学 ═══ |
| | 鹿児島 15:30 ～～フェリー～～ 屋久島（安房） 17:30 ═バス═ 屋久島グリーンホテル［泊］ 17:45 |
| 11/11 (木) | ホテル 8:00 ═バス═ 〈屋久島自然環境学習〉 ═バス═ 17:00 シーサイドホテル屋久島［泊］ |
| | 選択コース１．屋久杉の森の探訪　２．亜熱帯植物と海中探訪 |
| | ３．屋久杉自然館とサバ節工場見学　４．ウィルソン株見学 |
| | ※夕食後、鹿児島県立屋久島高等学校生徒との交流 |
| 11/12 (金) | ホテル 10:00 ═バス═ 白谷雲水峡散策 10:30 ═バス═ 12:30 宮之浦 13:20 ～～フェリー～～ 17:10 鹿児島 ═バス═ 17:40 ═ サンロイヤルホテル［泊］ |
| 11/13 (土) | ホテル 8:00 …〈鹿児島市内班別自主研修〉… 12:30 西鹿児島 ═バス═ 14:30 鹿児島 ……航空機…… 16:10 ……羽田 ═バス═ 16:40 尾瀬高校 21:20 |

――修学旅行の楽しいお食事――
箱根 彫刻の森 美術館内
レストラン コンポート



◇500名様迄、ご利用いただけます。
◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。
〒250-0407
神奈川県足柄下郡箱根町二の平1121
☎0460(2)2221（予約センター）

座禅体験で
〝心、リフレッシュ!!〟
清潔、安全、快適、
安心のお宿



| | | | |
|---|---|---|---|
| 本館 | 17室 | 194帖 | 120人 |
| 比叡 | 28室 | 260帖 | 200人 |
| 北嶺 | 15室 | 160帖 | 130人 |
| 計 | 60室 | 614帖 | 450人 |

〈国際観光旅館〉
比叡山 延暦寺会館
TEL 0775－78－0047・0554
TELEX 5464－917
FAX 0775－79－5053